

大学・短大・専門学校・・・徹底解剖！！

5 月 2 2 日に 3 学年科目選択を締め切りました。学年全体としては、1 年生のときよりは進路について研究が進んでいたように感じます。しかしながら面談を進めていくと、まだまだ研究不足と感じるところや、みなさんの勘違いの多さも感じました。

今号は、大学・短大・専門学校や医療系の学校の違いを中心に話を進めていきます。1 学年から進路研究を進めてきていますので知っていて当然の内容ばかりですが、今回はその総復習となります。研究を進め、勘違いを減らしていきましょう。

大学・短大・専門学校の違い

まず、大学・短大・専門学校の違いを表にまとめてみました。

<大学・短大・専門学校の違い①>

	大学	短大	専門学校
教育内容	学術的な研究を行う	幅広い教養を身につけるとともに、職業や實際生活に役立つ能力を育成	実践的・実務的な教育
学校数	約 800 ※少子化ながら、微増で推移。	約 350 ※4 年制大学への変更に どで、減少傾向。	約 2, 800
就業年数	4 年間 (医・歯・獣医・薬 は 6 年間)	2 年間 (医療系は 3 年間)	1 ～ 4 年間 (系統によって異なる)
入学方法	主に一般入試・推薦入試 (大学によっては、AO 入試も実施) ※私立のセンター利用が 増えてきている。 ※地方入試・全学部入 試・試験日選択制など、 入試方式が多様化して きている	主に一般入試・推薦入試 ※推薦入試で入学する比 率が高い。 ※センター試験利用入試 も導入されている。	主に一般入試・推薦入試 ・AO 入試 ※近年、AO 入試が多く なっている。 (専門学校の種類によっ ては実力が達していな くても合格できる場合 があり、「青田買い」の 批判もある)

<進路ナビ→<http://shinronavi.com> より抜粋>

この表をみてもまだ、「大学はガクジュツテキケンキュウ・・・。」何となく「固いイメージで難しそうだから、実践的な内容が学べる専門学校の方が良さそう。」と、考えている人。正直、まだまだイメージ先行型の進路選びです！！

「大学に行ってまで勉強したくない」「私立大学は学費がかかるので専門学校」という言葉をたまに聞きますが、担任としては、その言葉を聞くにつれ、「研究が進んでないな・・・。」とため息をついてしまいます。

<大学・短大・専門学校の違い②>

	大学	短大	専門学校
卒業に必要な単位	「就学年数×3 1 単位」以上が基準 ※大学については異なるものの、授業の講座が入らない時間も設定できるような、余裕を持った時間割が組める。アルバイトや部活動・サークル活動など、学習活動以外の人生の幅も広げることが可能。 ※短大も大学とほぼ同様の基準だが、2 年制であれば学習と就職活動を両立させる覚悟が必要。		800 時間以上 ※ただし、「専門士」の称号が与えられるには、2 年以上で総授業数 1, 700 以上が必要。 ※専門学校にもよるが、ほぼ管理されたカリキュラムで学習。知識や技能の習得を短期間で行うので、高い出席率や頻繁なレポートが求められる。
学費 (初年度納付金の目安)	国立 817,800 円 私文 1,149,260 円 私理 1,496,044 円	私立短期大学 1,121,517 円	専門学校によって大きく異なる。 私立であることが多いので、私大程度と考えるのが一般的。 また、語学研修などの「研修費用」のように、実習費用が <u>入学金・授業料とは別にかかる場合もある</u> 。

<ベネッセマナビジョン保護者版→ <https://manabi.benesse.ne.jp/>
および、キャリアガーデン→ <http://careergarden.jp/>より抜粋>

「大学に行ってまで勉強したくない」と言う人がいますが、「美容師」「調理師」などやりたいことがはっきりとしている人ならともかく、勉強したくないから専門学校、というのは大きな間違いでしょう。

専門学校は、各分野のエキスパートを育てるために、早いうちから各分野の専門性の高い技術を学びます。高い出席率や頻繁なレポートが求められるのは、そのためです。やることがはっきりとしていない、勉強したくない、という気持ちでは、入学しても長くは続きません。

また、「私立大学の学費は高い」という印象がありますが、「専門学校もほとんどが私立」であることを頭にに入れておきましょう。

また、入学金・授業料の他に、「研修費」「実習費」「設備費」などの名目で別にお金がかかる場合もあります。これらはパンフレットに明記されている場合もありますが、分かりにくいこともあります。きちんと調べて理解しておきましょう。

看護系大学・短大・専門学校の違い

最後に、本校の進学希望者の多い、看護系の大学・短大・専門学校の違いを「カリキュラムの違い」の観点から、表にまとめてみます。

	看護大学	看護短期大学	看護専門学校
取得可能資格	＊看護師国家試験受験資格 ＊保健師国家試験受験資格 ＊助産師国家試験受験資格 （助産師課程がある場合において所定の科目を履修した場合） ※保健師資格を取得すれば、申請により養護教諭２種免許が取得可能 ※保健師・助産師などの資格は、看護学部の中でもさらに定員を設けている場合が多い。	＊看護師国家試験受験資格 ＊養護教諭２種免許が取得できる学校がある。	＊看護師国家試験受験資格 （保健師・看護師統合カリキュラム校は、保健師国家試験受験資格も取得可能） ※助産師など看護師以外の資格を取得する場合、看護専門学校卒業後、専門の養成施設で取得できる場合あり。 （ただし、全国に養成施設は多くはなく、現実的には難しい。）
特徴	＊一般教養科目が充実しており、幅広い分野の学習ができる。 ＊看護を体系づけて学習でき、思考力や判断能力が養われる。	＊大学への編入学可能（３年次）	＊大学・短期大学に比べ現場での実践力を養う教育に比重が置かれている。 ＊編入学資格を得られる専修学校の卒業者は、大学編入可能（３年次）
就業年数	４年間	３年間	３年間 （定時制・統合カリキュラム校の場合は４年）
修了者に対する称号	学士	短期大学士	学校によっては専門士
その他	＊学士の学位取得可能 ＊大学院への進学可能	＊合計１２４単位（４年間程度）を履修した場合、「大学評価・学位授与機構」により、学士の学位取得可能	
	看護師の場合、一定期間指定された病院に勤務することで、返済が免除になる奨学金もある。金銭的な事情がある場合は、奨学金についてよく研究しておくこと。		

くえがおのひろば（公益法人青森県看護協会）→<http://egao-park.net/> より抜粋し、一部加筆した。＞

どのタイプの学校がよいか、ということは一概には言えませんが、イメージだけにとらわれず、多くの学校を比較して選んでください。



シリーズ連載 かしこい消費者としての学校選び 第2回 ～「お得感」にだまされない～

長岡市にある某ショッピングセンターに良く買い物に行くのだが、今回は、そこでのセールの時のお話。その日はセールなので５０％off とかなり安かったのだが、さらに店員からダメ押しの一言。

店員「ただいまの時間、タイムセールですー。５０％off のあと、レジにてさらに２０％off ですー！！」自分「うん、安い！『最後の一押し』もあるし、買っちゃおうかな・・・？」

しかし、ここで私は「本当は、いったい何％off なんだろう？？」と少し考えてしまった。

さて、ここでみなさんに問題。→「実際は、もとの値段の何％off でしょう？」

さっきの店員の話聞いて、少しでも「５０％＋２０％だから、７０％off ！！」と思った人。もうすでに、あなたはこのタイムセールに乗せられているかもしれない。

正解は「６０％off」。ごく簡単に説明すると、
１，０００円の半額 → ５００円、
５００円の２０％off → ４００円 （答）６００円引きなので６０％off
である。このケースであれば、６０％off でも７０％off でも得であることには間違いのないのだが。

さて、これから伝えたいことは、「何となく得」という基準だけで選んでしまうと、「本当に得なのか？」「いったいどれぐらい得なのか？」が分からなくなってしまう、ということである。

進路にとっても、同じことである。多くの上級学校（特に専門学校）は、みんな（＝お客様）を獲得するため、あの手この手で「お得感」を演出する。

たとえば、「**就職率１００％！！**」「**早めの入試で受験すると、入学料免除！！**」「**現場と同じ機材を使って、夢の△△△を目指せる！！**」など・・・。

しかし、これらは最悪の場合、
「就職率１００％！！」・・・就職が決まらなかった人は「自分の意志」で就職希望を辞退。
したがって、就職希望者に対する就職率は１００％
（「自分の意志」とは、「就職辞退」の書類を無理やり書かされること。）

「早めの入試で受験すると、入学料免除！！」
・・・入学料は免除だけど、学費はいくら？
ひょっとすると、普通の試験で違う学校に入学した方が安いかも・・・。

「現場と同じ機材を使って、夢の△△△を目指せる！！」
・・・実際の現場と同じ機材で、△△△の職業に「就いた気になれる」。
しかし、その学校に進んだ人全員が本当に就職できる職業？？

なのかもしれない。

厳しいことを並べているようだが、決して夢や進路希望をあきらめなさい、と言っているわけではない。一番伝えたいのは、「**見る目をしっかりと持とう！！**」ということである。
「おいしい話には裏がある・・・」かもしれない。そんな気持ちを持って、多くの学校を比較して、進路研究を重ねていくことを切に願う。「お得感」にだまされないために・・・。（文責：佐藤）